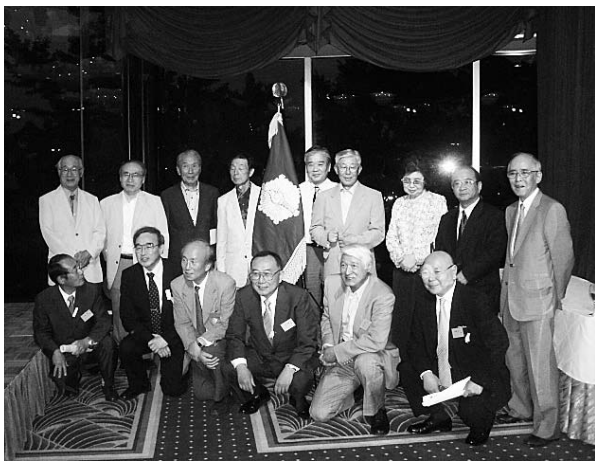
第一回『聖光シニア会』盛大に開かれる


シニア会各期幹事と教員のみなさん

去る六月十二日（金）、中区山下町のホテルニューグランド「ペリー来航の間」において、第1期生から第5期生までの合同による同窓会が開催された。

今まで各業界の第一線で活躍されてこられ、六十歳という節目を迎えた世代を中心に、昔の思い出などを語り合う場を設けようと1期生から5期生までの有志が中心となり今回「聖光シニア会」が企画された。

会は各期二～三十名ほどが集まる盛大なものとなり、特別ゲストとしてトマス学院長（前校長）はじめ、各期がお世話になった往年の名教師陣が勢ぞろいした。

途中、各期により、学生当時の思い出の写真をスライドに流し、昔の懐かしいエピソードの発表が行われ、みなスライドを夢中になって見入っていた。

特に、4期生の元放送部がおそらく盗み撮りしたのであろうというブルーノカロン初代校長の映像と肉声の挨拶、そしてカロン校長作詞作曲の『遥かなる磐梯』の演奏など、大変貴重な映像と音声も発表され、あちこちから驚きの声が上がっていた。

最後に、聖光学院校歌の作詞者である関修先生自らの指揮による校歌斉唱、そして、全員による記念撮影が行われお開きとなった。

参加した誰もが昔の思い出話に花が咲き、時間があっという間に過ぎてしまったようで、次回開催を望む声があちこちから上がっていた。

次回の開催については、今のところ未定であるが、また開催が決まった際には当会報や聖光学院校友会HPなどでお知らせする予定です。

聖光学院校友会シニア会のホームページはhttp://seikosenior.org/です。ふるってアクセスしてみて下さい。

トマス学院長をはじめとする先生方

シニア会のご報告

実行委員代表　中山　晃（2期）

さる六月十二日の金曜日に1期生から5期生までの草創期に聖光で学び還暦を迎えた卒業生がニューグランドホテル「ペリー来航の間」で一堂に会し、同窓会を開催しました。往時の懐かしい先生方九名と工藤校長先生、トーマス元校長先生もご参加頂き、卒業生百十三名が出席しました。

1期から5期まで各期ごとにアルバムで懐かしい草創期の聖光時代を振り返り、故カロン校長や故鳥羽先生の肉声も飛び出し、半世紀近い昔の思い出を語り合いました。

そして、この度の集いの趣旨でもある各学年を越えた交流も沢山見られ、楽しい思い出の一時となりました。また、いつか近い内にこの様な集いが出来ればと念じて筆を置きます。ご参加の皆様、ご協力頂きました多くの皆様、幹事の皆様有難うございました、お疲れ様でした。

別紙に当日の会計担当幹事の山川さん（3期）作成の会計報告を添付致しますので、ご参照下さい。

シニア会 決算

実績…参加人員は先生11人、ＯＢ113人　合計124人

（収入）

ＯＢ人数（人）	会費（円）	会費収入（円）
113	9,000	1,017,000
聖光学院校友会補助		300,000
来賓ご祝儀		20,000
その他収入		1,000
収入合計		1,338,000

（支出）

ホテルへの支払い	1,160,550
加藤酒店（焼酎購入）	20,000
都筑ハーベスト（焼酎購入）	20,000
岩崎氏（アルバム編集の謝礼）	20,000
関戸氏（写真撮影の謝礼）	20,000
聖光学院校友会へ戻入	97,450
支出合計	1,338,000

参加ＯＢの内訳

1期	20人
2期	28人
3期	26人
4期	28人
5期	11人
合計	113人

シリーズ 第17回

卒業生のお店紹介

創業125年の老舗

蕎麦屋　松月庵

店主　14期　須山　守

須山守さん

川崎大師の表参道で曽祖父の代より蕎麦屋を営んでいます。かつて聖なる学園を荒らしていた?悪ガキの僕は気がつくと長靴の似合うイケてないオヤジになっていました。そのかわり精魂込めた手打ちの江戸蕎麦はかなりのイケ麺と自負しています。

日々かつを節を削り蕎麦を打つという単調な繰り返しの中で美味しさを求め格闘してきました。その一つがワインとの出会いで五年前ソムリエの資格をとり、こそ温故知新、老舗ならではの味をきちんと伝えていかなくてはと考えています。創業百二十五年の今年14期生の同窓会を弊店で開いていただき、ああ蕎麦屋になってよかった!と心底思いました。現役・ＯＢ皆様のご来店をお待ちしています。

店では地酒や焼酎などと共にワインが楽しめます。

とはいえ構えはごく普通の門前蕎麦屋。せいろや天ぷら、だし巻きなど通好みのお品のほか、鴨南蛮やおかめ、卵とじといった昔ながらの種物を丁寧に作っています。せいろストイック系が主流の今

お口は体の健康の基本

はまの歯科医院

院長　18期　浜野　弘規

浜野弘規さん

聖光を卒業後、大学・十年の研究生活（病理学）を経て、磯子の実家の医院にて父親とともに地域診療に携わっていました。そして今年の二月に「のれんわけ」という形で、南区浦舟町・市大センター病院正面の医療ビル二階で開業いたしました。

新規開業にあたり、多くの患者様は、歯の保存や予防といったオーソドックスな一般歯科治療を望んでいることを感じましたので、個々にあった治療方針や結果を丁寧にわかりやすく説明、診療することを基本スタイルにしています。またインプラント・歯周組織の再生治療、審美治療といった新進の歯科医療、さらに医大の町・浦舟町にある特性を活かし、「お口は体の健康の基本」をモットーに全身健康に沿った口腔の治療、糖尿病などの口腔ケア、ドライマウス、「食育」のプログラムなどにも取り組んでいます。医療にとっての一番の基本は「確かな診断力と技術」だと考えています。自分自身は現在も多くの大学・歯科界の仲間と交流を深め、情報交換を行っています。もし、ご自身やご家族でお口のご相談がありましたら、気軽にお声をおかけください。聖光関係者は大歓迎です。

聖光を卒業した約三十年・四十歳後半の我々世代は、いよいよ社会における最前線の層であることを、活躍する同級生の姿からいつも感じていました。その彼らを見ながらこの年齢で心機一転「独立」することの意味・不安を思ったことは事実です。しかしこの岐路に対し、親身になって相談・応援してくれたのは、実は高校時代の友人たちでした。母校で培った絆というもののありがたさを今回、改めて感じたものです。

一昨年、母校の五十周年の「第九・合唱」に参加した感動は今でも残っています。合唱の練習で半世紀ぶりに「登校」した母校の後輩のりりしい姿を目の当たりにしたとき、歯科医療人としてお役にたてることはないだろうかと感じたことから、昨年「歯科から提示する食育」を高一の生徒に講義させていただく機会を得ました。二十五年目にして母校の教壇に立てた喜びとともに、このように様々な形で、横浜の地域に貢献できるように努めるつもりです。